

概要報告

実施期日	7月28日(火)【午前】
部会名	小学校 総合的な学習の時間部会

テーマ 『目標に向かって、主体的・協同的に取り組む子どもたちの姿を目指して
～「子どもフェスティバル」において「総合的な学習の時間」の学びをどのように作るか～』

提案概要

総合的な学習の時間に位置づけられている「フェスティバル（お祭り）」をより充実したものになりたいという願いを持ち、また3年生という総合の入り口の学年で「総合とはこのような学習である」ということを知る部分を丁寧に進めたいと考えて取り組んだ。

社会科でお店について学習したことを活かし、「誰のための、どのようなお店を作りたい？」と投げかけ、「お客さんを笑顔にする、喜ばせるお店にする」という目標を設定した。この目標を意識させた上で「劇」に取り組むこととなった。台本作成・役割分担等の準備を進め、当日は予想よりも多くの人に来てくれた。

普段のフェスティバルであれば、ここで終わるが、今回は目標に対するふり返しを行った。多くの児童は「楽しかった。大成功。満足。」と感じていたが、担任としては、「ギリギリの取り組みになったこと、劇のクオリティ」などが気になっていたので、児童の反応は予想外なものであった。そこで、ある児童の「みんな拍手してくれていたけど、喜んでもらったのかよくわからない」というふり返しを全体化することで「本当に喜んでくれたのか」という考えが他の児童にも広がった。「本当に喜んでもらったのか。何が良かったのかを知りたい。」ということが次の課題となり、アンケートを作成・実施した。

総合であるということを指導者が意識することで、学びが成立していた。他の教科に広がる自信をつけていた。全体計画・年間指導計画への反映、見直しはまだできておらず、これからの課題である。

質疑概要

- Q1 目標などについて、職員での共通理解はどの程度図られているか。
- A1 フェスティバルは集会委員会の提案という形で行っている。昨年度のスローガンは「協力、エコで安全」だった。職員会で、ねらいなどについては共通理解をしているが、どのように考えて取り組んでいくかは、各クラスで取り組み方に違いがあるのが現状。
- Q2 提案はフェスティバルまでだったが、その後の様子について教えてほしい。
- A2 3学期に入り、「フェスティバルにこだわらなくていいよ」と伝えたが、児童の気持ちは劇に残っていた。そして「拍手いっぱい完璧な劇」を目標にして取り組んだ。フェスティバルの頃から「お家の人にも見てもらいたい」という声があったので、学習発表会で披露した。子どもたちは満足して終えた。
- Q3 フェスティバルの参加者は？
- A3 児童のみ。保護者や地域の方の参加はない。
- Q4 フェスティバルは毎年同じ時期に行われているのか。1, 2年生の時に参加した経験は？
学習発表会でも行うという構想は、初めからあったのか？
- A4 毎年同じ時期に行われている。1, 2年生は生活科の活動を発展させたお店などを体験している。初めから学習発表会でも行うということは考えていなかった。
- Q5 スローガンの「エコ」に繋げる取り組みは、具体的にどのようなことを行っているのか。
- A5 ゴミ処理については、ここ数年の課題だった。片付けのことも考えて作ろうという流れが出てきた。ゴミの処理にも費用がかかることも理解されており、「エコ、リサイクル、あるもので活かして」が子どもたちの中でも受け入れられている。段ボールなど、みんなで等分して持ち帰る様子もあった。

研究協議概要

〈協議1 フェスティバルを総合として充実させるには〉

【各グループの報告より】

○フェスティバルについての現状は様々である。総合の目標と合わないこと、時間的な厳しさやゴミの問題などから縮小化されたり、なくなったりしている学校もあるようだ。実施している学校でも、行事、

特活、総合、学習発表会と扱いは多岐にわたるようである。

- 総合については、柱があるないに関わらず、教師が様々な「人」と繋がっている必要がある。ただし一人では難しく、決まったことをやる保守的な学習になっている実態もある。
- フェスティバルをゴールにすることで、活動が狭くなってしまったように感じる。「誰のため」を強く意識することで広がったのではないか。本物（お店）を参考にした会場作り、看板を作るためのパソコン活用、外国の人に聞くために国際教育などに繋げることができたのではないか。
- もっと知りたいとアンケートを実施する探求的な活動は、3年生の取り組みとしてはすごいと感じた。
- 総合として取り組むなら、準備から片付けまでねらいにそったものであるように進める必要がある。
- フェスティバルは主体的に取り組むことができる活動であるが、教科の中で学習したことを活かしてできると良い。教科学習でインプットしたことを、他学年に向けてアウトプットしていく場とすれば、単元として有用性がある。年度当初から計画的に取り組むと良い。

〈協議2 全体計画・年間指導計画をどのように見直し改善していくか〉

【各グループの報告より】

- 見直しをする前に、総合と特活の線引きが難しいと感じている。全体計画改善の前に、フェスティバルそのものを見直す必要があるように感じる。
- 同様に、年度終わりに見直す程度になっている。また年度初めに、前年度までの資料を見たり、聞いたりと取り組んでいる。良い実践を残していくのは大切だと感じながらも難しい。
- 総合に予算が付いている関係で、実践報告書を作成している。

まとめ概要

- フェスティバルを学びのあるものにしたという願いをもとに実践されていた。課題解決やふり返りなど上手くコーディネートしていた。
- 3年生という学年で「総合とはこうやって学習していくんだ。」ということを示したことも大切だった。この経験をもとに、子どもたちが今年度4年生として、どのような取り組みをするのか楽しみである。
- フェスティバルの扱いを全体で見直していくことが今後大切となる。単元で何をねらっていくのかをはっきりしていく必要がある。フェスティバルを通して、3～6年生でめざす姿・系統性・ねらいなど共有して行ってほしい。フェスティバルについて考えることが、全体計画を見直すきっかけになるのではないか。
- 「言語活動」も意識して取り組んでいた。話すのが苦手な児童にはどのような手立てがあるか考えてほしい。考える時間を確保する、グループでボードを使って共有するなど、自分の意見が大切にされているという有用感、互いの意見が大切にされているという雰囲気を持つると良い。
- フェスティバルを総合の視点で見直すという提案は、どの学校においても参考になるのではないか。
- 現在、総合をやっているという実感を持っている指導者がどのくらいいるのだろうか。内容が固定化してしまい、学びに対する活力が低下してはいないか。フェスティバルは総合なのか特活なのかという曖昧さの中で縮小化されている傾向にあるが、今回のような見直しはすぐにできるのではないか。その際に探求活動があるかどうかポイントである。現在の計画で良いので、探求活動が繰り返し行われる流れになっているかどうか見てほしい。
- 課題設定で「社会科のお店調べから始まっている」ことや、つぶやきをしっかり拾っていることは良かった。総合だけではなく、教科学習でも、指導者は児童を見る目、つぶやきを拾う力を鍛えてほしい。
- 総合には「警視庁型」と「アマゾン型」があるといわれる。いるか、いないかわからない新種の生物を探すアマゾン型のように、何を学ぶではなく、どのように学ぶかという学習だととらえて、時間をかけていくしかない。原点を見直すことができる提案だった。まずは自分一人からでも良いので取り組んでほしい。そこから学校全体に広げていけると良いと思う。